

平成23年度 学校自己評価システムシート (県立久喜工業高等学校)

目指す学校像	自分創りを目指し、望む進路実現を図り、真の感動を味わえる”こころ・技・からだ”が育つ学校 ー①もの創りの”こころ”と”技”を身につけた人づくりを目指す。 ②知・徳・体のバランスのとれた人づくりを目指す。ー
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 個に応じた学力と技術力の向上を推進する。 授業態度の確立を図る。授業内容の充実を図る。資格取得等を奨励する。 基本的生活習慣の確立と向上を推進する。 欠席、遅刻、早退の減少を図る。服装、頭髪指導の徹底を図る。挨拶と正しい言葉遣いの励行を図る。 個々の生徒に応じた進路指導を充実する。 生徒の職業観や勤労観を育成するとともに、進路希望に応じたきめ細やかな指導を行う。 地域の信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。 中学生やその保護者に積極的な情報提供を行う。地域の行事等への参加。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	12名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

学 校 自 己 評 価				年 度 評 価 (2 月 3 日 現 在)			
年 度	目 標	年 度 評 価	評 価	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	専門技術の習得や資格の取得に積極的な生徒が多く、熱心に取り組んでいる。 しかし、基礎的な知識や能力に欠ける生徒や、学習習慣が身につけていない生徒もいる。	授業改善、学力向上	○基礎学力を向上させるために、全教科・学科を通して取り組む。 ○生徒の興味関心をひく授業展開や教材の選択を工夫する。 ○補習、課題学習、再実習などを実施し、欠点者を減少させる。 ○資格取得指導を引き続き行う。 ○「人の話を聞く姿勢」や「学ぶことの大切さ」を、折に触れて学ばせる。	○基礎学力向上への取り組みの明確化 ○成績優良者数の増加 ○成績不振者数の減少(欠点者数と欠点解消率) ○技術顕彰対象者の数 ○ジュニアマイスター対象者の数 ○資格取得状況	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、学科で行ってきた基礎学力向上に向けての取り組みを、一覧表にまとめ公開した。 成績優良者数は昨年度とほぼ同数であった。(1学期 98名 → 91名 2学期 84名 → 83名) 成績不振者数については、1学期については欠点者数は増加したが欠点数は減少した。(欠点者 139名 → 153名、欠点数 433個 → 388個) 2学期については欠点者数、欠点数ともに減少した。(欠点者 207名 → 182名、欠点数 611個 → 519個) 欠点解消率については昨年度より向上した。(42.4% → 55.5% (1学期)) 技術顕彰、ジュニアマイスターの対象者は昨年度とほぼ同数であった。技術顕彰 27名 → 32名(昨年度より5名増加) ジュニアマイスター ゴールド1名、シルバー1名 → ゴールド2名、シルバー1名 資格取得状況は、資格により増減はあるが、昨年度とほぼ同数であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科及び学科で工夫をし、基礎学力の向上へのさらなる取り組みを行う。 成績優良者数を増加させる。 成績不振者数(欠点者・欠点)を減少させる。 資格取得数を増加させる。(指標として技術顕彰・ジュニアマイスター数)
2	○基本的生活習慣が身につけていない生徒が見受けられ、欠席、遅刻、早退の常習者がみられる。 ○集団の中の一人であるという自覚に欠け規範意識が身につけていない生徒がいる	生徒指導	○生徒指導部、各学年を中心に、学校全体として組織的に遅刻指導に取り組む。 ○校門指導、巡回指導にスクールサポーターも参加し挨拶・整容・交通マナー指導を継続的に行う。 ○普段の学校生活の中で教職員による積極的な声かけにより挨拶・整容指導を実施する。 ○講演・ビデオ等により人権を尊重する態度を育成する。	○欠席・遅刻・早退の数 ○頭髪・服装指導を受けた数 ○校門指導・通学路指導の回数 ○人権教育の回数	<ul style="list-style-type: none"> 各学期ごとに遅刻防止週間を設け、遅刻の多いものについて学年指導を行った。この指導により、昨年同期と比較し、欠席者30%減、遅刻者数38%減、早退者数19%減になった。(2学期末現在) 頭髪・服装は、年8回の検査を行い、期限内に改善しない生徒については改善するまで指導を行った。その結果、2学期以降は指導者は出していない。 遅刻・服装・交通安全指導は、毎月1週間、正門指導及び巡回指導を行った。また、月初には、スクールサポーターも参加して登校指導を行った。 人権教育は、LHR及び全校集会で事前学習を行い、その後人権についてのビデオ視聴を通して人権を尊重する態度を育成した。(2学期末1回) 2学期以降、通学路の美化活動を強化した。当初は教職員で行っていたが、生徒の自発的参加が見られるようになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 欠席・遅刻・早退数を減少する。 遅刻防止指導を充実する。 遅刻・欠席の多い生徒に対して、保護者同席での指導を行う。 頭髪・服装指導について学年主体ではなく工業科と連携を図って行う。 交通安全指導・美化運動などに、生徒会等が積極的に参加できるシステム作りを行う。 規範意識を確立する。
3	○近年、社会全般の不透明感が増すにつれ、本校では就職希望者数が漸増傾向にある。本校に進学してくる生徒・保護者の期待に答えられるよう、「ニート・フリーターをださない。正社員にする。」を目標に掲げ、就職指導の充実を図る。 ○就職・進学で重視される面接試験の対策としてコミュニケーション能力や勤労観の育成を行う。	進路指導	○進路希望調査・適性検査のフィードバックを適切に実施する。 ○きめ細かい進路ガイダンスを実施する。 ○年間を通しての進路学習(ナビゲーションワーク)を行う。 ○充実した模擬面接指導(外部指導者)を実施する。 ○全員参加によるインターンシップを実施する。 ○保護者に開かれた進路指導を実施する。	○就職・進学決定者数と未定着者数 ○諸検査の実施回数と満足度 ○進路ガイダンスの実施回数 ○ナビゲーションワークの利用回数 ○インターンシップアンケートから読み取る生徒の満足度 ○進路ガイダンスへの保護者参加数	<ul style="list-style-type: none"> 就職決定者数107名、進学決定者数85名、就職未定着者数0名、進学未定着者数5名で、就職未定着者数は、前年同時期より3人減少した。(1月末現在) 諸検査は各学年1回実施。内容は、職業適性検査(1学年)、クレベリン検査(2学年)、SPI(3学年)を実施。どの検査も進路指導に有効であったが、特に3学年は、進路指導に有効であったと評価している。 進路ガイダンスは、1学年2回、2学年3回、3学年3回実施した。来年度も、計画的に実施する予定。 ナビゲーションワークは1学年、3学年が5回実施した。 インターンシップは、体験した生徒の99%が「良かった。」と解答している。また、企業側からのアンケートでも、今後も受け入れたいとの意見が74%に達し、総じて成功だった。今後も全員参加で実施する予定である。 保護者の参加を可とした3学年第1回の進路ガイダンスでは、40名以上の保護者が参加し、関心の高さを窺わせた。さらに、機会を増やし、開かれた進路指導を実現する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「ニート、フリーターをゼロにする。」を目標に掲げ、生徒の職業観・勤労観の育成を図る。 各学年との連携を図り、年間を通しての進路学習を行う。 保護者にさらに情報提供を行い、開かれた進路指導を実施する。 模擬面接指導をさらに充実させる。 全員参加によるインターンシップを実施する。
4	○生徒や保護者の意見を取り入れた教育活動を積極的に行うことが課題である。 ○本高の教育活動に関する情報が中学生や保護者、地域の方々などに十分に伝わっていない点がある。 ○スクールサポーターとの連携を工夫し、幅広く参加してもらうことが課題である。 ○地域の小中学校や市民との交流を図り、本校への理解を深めてもらうことが課題である。	開かれた学校づくり	○学校教育に対する生徒や保護者のニーズを的確に把握し、授業改善等を行う。 ○ホームページを計画的に更新し、積極的に情報発信を行う。 ○学校案内等の内容を改善し、本校の教育活動を理解しやすくするとともに、中学校訪問や説明会などを通してPRに努める。 ○PTAとの連携(スクールサポーター等)を深めるとともに、地域の行事等に参加して、地域との連携を深める。 ○出前授業などをとおして、小・中学校との連携を深める。	○生徒・保護者アンケートの実施 ○ホームページの更新数及びアクセス数 ○学校公開の参加者数 ・文化祭 ・公開授業 ・体験入学 ・学校説明会など ○スクールサポーターの参加者数 ○地域の行事への参加状況 ○中学校からの本校見学の受け入れ数及び出前授業数	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に保護者、3学期に生徒アンケートを実施した。その結果から、本校の教育活動に対する満足度が、保護者94%、生徒75%と高い数値であった。 ホームページの更新は、61回で昨年と比較して14回増加した。アクセス数は、2,156回増加した。(1月現在) 学校の教育活動をアピールするために、県教育委員会の県立学校ニュースに8件の情報提供を行った。 文化祭来校者304人増加。体験入学来校者91人増加。学校説明会来校者52人増加した。 毎月最初にスクールサポーターが参加して登校指導を行った。毎回20人以上の保護者が参加した。その他、清掃活動、高校進学フェアや長距離大会にも参加した。 春日部市(1回)、久喜市(2回)の市民祭りに参加。 中学校上級学校訪問14校80人来校。 出前授業を中学校で3回、児童館で1回実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校の満足度を向上させる。 生徒・保護者への情報発信システムを構築する。 ホームページの更新回数及びアクセス数の増加 県教育委員会へ積極的に情報提供を行う。 出前授業数を増加する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成24年2月24日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上は、大学、中学校でも学力向上が大きなテーマになっている。高校では、どのように取り組んでいるのか教えてほしい。 成績の欠点者が減少していることはよい方向に向かっている。生徒が、資格取得に意識が向いてくれば、ジュニアマイスター等の数が増えてくるのではないかな。1年から進路を意識した取り組みをした方がよい。 資格試験にもっと積極的に取り組んでも良いのではないかな。子供が在学中にあまり資格を取ることが出来なかったのが残念だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学路で服装の乱れが減ってきて良い傾向だと思う。毎年、久喜工祭に向っているが、生徒はいろいろ説明してくれるが、もう少しプレゼンテーション能力があった方が良いのではないかな。その方が、来場者に対してもアピールできるし、卒業後の進路のことを考えても良いと思う。 学校は校内に大変ゴミが少ない。地域の方も大変苦勞していると思うが、良い環境である。入学時、目的意識の低い生徒を入学してから、どう指導するかによって学校は変わってくる。久喜工業の教育方向がしっかりしていれば、2、3年と進級するにしたがって良くなっていく。そういった意味では、先生方はよくやっていると思う。 他校では、この時期に就職できないで進学に切り換える生徒もいるなかで、就職希望者の進路が全員決まっていることは凄いなと思う。 就業意欲が高い生徒を入社させたいので、面接を重視しているため、コミュニケーション能力を養うことが必要である。最近の生徒は、大人と話す機会が少ないので会話が続かない。先生方と話す機会を増やした方が良いと思う。そうした点でもインターンシップは大変良い。会社側としても、若い社員が高校生と接することで成長できることもある。ただ、保護者が、どう思っているのが企業に伝わってこないのが残念だ。